



# 清風

南砺市立上平小学校  
学校だより  
令和5年2月  
上平小学校ホームページ  
<http://kamitaira-e.el.tym.ed.jp>

## 上平小学校の伝統②

校長 中町 寿子

2月半ばの朝、1年生の子供がバスから降りてきて、「校長先生、おはようございます。」と元気な声で挨拶してくれました。とてもうれしい気持ちになりました。これまでの挨拶と何が違うかということ、相手の名前を呼んで、目を合わせて、挨拶していたところです。いつも以上に元気になりました。

先日、6年生の担任より、子供たちが上平小学校の伝統をどのように引き継いでいけばよいのかについて話し合い、挨拶においても何か手立てを考えているということを知りました。そこで、6年教室に行き、伝統のことについてももう少し詳しく子供たちの考えを聞かせてもらいました。挨拶については、以前より思っていたことがありました。上学年ほど、交わしたときの挨拶が心に響いてくるということです。それは、「〇〇さん、おはようございます。」と相手の名前を呼んでの挨拶ということだと思いました。この挨拶だと、相手の顔を見ます。目が合います。気持ちが通じます。挨拶をした方も返した方も気持ちよい1日のスタートを切ることができます。実は、このような挨拶の仕方は、元々、上平小学校の子供たちが考えたことでした。

さて、6年生の子供たちは、早速下級生の子供たちに「〇〇さん、おはよう」と言ってみようと思います。すると、いつもと違う挨拶に戸惑う下級生の様子から、6年生もやや気まずい気持ちになったようです。だからといって、ここで、自分たちが繋いできた伝統を途切れさせてよいのか。こればかりは、教職員が声を掛けていくということでは解決になりません。6年生の考えは、例え卒業式までであっても、挨拶の伝統が引き継がれるようあきらめず働きかけるというものでした。放送で呼びかけたり伝統の挨拶ができていない人を紹介したりするそうです。後1カ月ほどになった小学校生活の中で6年生として為すべきことを精一杯やり遂げようという強い思いが伝わってきました。引き継ぐべきは「思い」と改めて感じています。

### 《ほのぼの上平っ子7》

来年度のクラブ活動のことで聞いてください！

先日、5年生の子供たちが校長室にやってきました。「来年度のクラブ活動に『運動クラブ』をつくってください」とのこと。今年度のクラブ活動は、実験・工作、料理・手芸、パソコンの3つでした。Aさん「高学年になると、行事や委員会活動の準備等で休み時間を使うことが多くなり、思い切り体を使って遊ぶことが少ない」Bさん「3年生の時から、4年生になったら運動クラブに入りたいと思っていた。だけど、運動クラブはなくなって、どうしてなのかわからない」Cさん「休み時間にできる運動の種類は限られている」一方、Dさんは「だれもが、運動クラブがあればよいと思っているとは限らないよ」なんと素敵な子供たちでしょう。さて、来年度に向けてどうなったのかは、最終号でお知らせします。



## 跡

研究主任 井頭 士彦

水槽には、魚が跳ねてぶつかった跡が今も残っています。何度も洗ってみましたが、どうしても消えません。

中学年の総合的な学習の時間に、地域の自然の「じまん」を調べていると、あるグループが「庄川にたくさん魚がいるのは、水が透明できれいだから」という仮説を立てました。翌日、私は茶色く濁った水で満たした水槽を教卓に置きました。「汚い」「くさい」「何じゃこれ」とロ々に叫ぶ声。ややあって、それは驚きの声に変わります。30cmはある魚体が跳ねたからです。この日の朝、私が自分の住む井口地域で魚を釣り、川水ごと教室に持ち込んだのでした。水槽にいたのは、中・下流域に生息し、五箇山地域では見ないハヤやウグイ。飼育を通じ、それらが濁った水で元気に生き続ける姿を見たり、授業にお招きした地域の方から「田んぼの栄養分が溶け出て濁り、豊かな川もある」と聞いたりした子供たちは、考え始めます。他にはない庄川ならではのじまんは何だろう。証明するには他の地域と比べなくてははいけません。いや、そもそも「豊かさ」って、「じまん」って、どういうことだ…？

今年度は、研修主題を「自ら『問い』をもち、主体的に取り組む子供の育成を目指して」とし、教職員一丸となって授業づくりに取り組みました。子供が「問いをもつ姿」とはどのようなものか。「調べたい・確かめたいという気持ちをもつこと」「抽象的なものを具体的なものとして考えること」「これまでの認識とのズレを感じること」等、担任それぞれに解釈をし、様々な切り口や方法で子供たちと学び続けてきました。来年度は、今年度の「問いをもつ姿」について捉え方を今より絞った上で、研究を続けていきたいと考えています。

担任の取組で共通していたのは、子供の主体性を重んじ、学ぼうとする意欲に火を付けること。自ら学んで得たものは、水槽に残る跡のように、消えはしないはずで。